

新規就農者研修受入経営体の紹介 菊池 陽佑さん(遠野市)

中部農業改良普及センター 遠野普及サブセンター 田中真衣

遠野市で新規就農者の受入・研修を行っている、菊池陽佑さんを紹介します。

菊池さんは、「こだわりの食」のプロになるためには自分でつくるところから始めようと考え、仕事を辞め、他県での研修を経て、平成23年に就農しました。

現在は、「自然から命をつなぐ」をコンセプトに、水稻6.7haを栽培しています。

品種は、「ササニシキ」「あきたこまち」のほか、明治時代に作られ、現在は酒米としても用いられる「亀の尾」や、昭和初期に遠野で生まれた「遠野4号」なども取り入れています。

菊池さんは、担い手育成特定資産事業の「就農促進実践研修支援事業」を活用し、令和3年度から研修生1名を受け入れ、自然栽培を教えています。

自然栽培は、除草や「はせがけ」など多くの作業を手で行うため、通常の栽培方法に比べて時間と労力を要することから、その実践には地域の方々の理解と協力が必要です。

菊池さん自身、なかなか収穫量が増えない自然栽培に「農家自体をやめたほうがいいんじゃないか」と悩んだ時期もあったとのこと。

こうした経験を踏まえ、研修では、作物の力を最大限に発揮できるように育てていく技術はもちろん、共同作業を通じた「結」の精神についても学びの場を設けています。

菊池さんのフォローもあり、研修生は、借り受ける水田の目途が立ち、来春の就農に向けた準備を着々と進めています。

「研修生の就農に心配はしていない。経営者になれば不安も出てくると思うが、自分の信念からブレずに、やりたいことを実現させて欲しい。」とエールを送る菊池さん。

菊池さんの取組が、遠野地域の新規就農者育成に大きく貢献されることが期待されます。



移植機の操作手本を見せる菊池さんと、
研修中の佐藤さん



手取り除草中。「結」の精神、ここにあり